

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 8月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	2670600200		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム出町柳		
所在地	〒606-8204 京都市左京区田中下柳町18-1 常林寺 (電話) 075-791-6822		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-21 八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年7月18日	評価確定日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(平成19年6月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	7.4 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	82,500 円	その他の経費(月額)	50,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,270円

(4)利用者の概要(6月11日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 82歳	最低	79歳	最高	85歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	洛和会丸太町病院 丸太町クリニック たけいクリニック 洛和会訪問看護ステーション東山
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

洛和会ヘルスケアシステムのグループホームです。お寺の敷地内にあり、庭が広く、門扉からは、両側に花や木を見ながら、遊歩道を通して、ホームの玄関にたどり着けます。入居者は、庭に自由に出入りされていて、ベンチに座って、ゆっくりと緑を眺めながら、のんびりされています。すぐ前を鴨川が流れていて、四季折々の風景に囲まれながら生活することが出来、毎日の散歩コースにもなっています。ホームは、民家改造型で、バリアフリーにこだわらず、段差も多くありますが、生活するだけで、自然と身体機能が、維持、向上されているようです。陽射しの差し込むリビングでは、それぞれが、趣味のことや得意なことをしながら過ごされています。入居者にとって、心地よい居場所を確保するということは、職員の共通の思いであり、入居者の穏やかな表情を拝見すると、思いが十分に伝わっていることがわかります。入居者と職員が、仲良く、生き活きと生活されている場所ということが感じられました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、気になったことを踏まえて、職員間で改善点を話し合い、今までのケアを振り返る機会とされています。気付きについても話し合われて改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者がまとめたものを、全員で回覧し、気付きを取り入れられています。項目を理解するために、勉強をしたいと考えるようになり、自己評価をすることで、自ら改善点を知ることが出来、有意義なものとしてされています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度開催する運営推進会議では、ホームからは、取り組み状況や認知症の話等をし、地域の方々から、様々な意見や情報をもらえる機会にされています。今後も、積極的に活用していきたいと考えられています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、請求書の送付時には入居者の様子や、状態を書いた手紙を同封し、コミュニケーションを図られています。ホームの玄関には意見箱が設置されており、相談窓口を明確にして、気軽に話をしていただけるように心掛けています。また、年に2回家族アンケートが実施されています。家族からの意見や相談には、すぐに対応できる体制も整っています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の地藏盆や保育園のバザーに参加されています。また、自治会の参加を通して、顔なじみの関係づくりがされています。民生委員や地域の方から行事のお誘いも頂ける様になり、回覧板を通じて、地域のことも把握できるようになってきました。今後は、ホームからも積極的にアプローチし、多くの行事に参加したり、ホームにも、気軽に訪問していただけるよう取り組まれる予定です。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を、玄関の見やすい場所に掲示している。季刊誌にも、理念を明示し、広く配布している。現在、出町柳としての、目指しているものや、どういうホームにしたいかを、職員間で話し合い、法人の理念をふまつつ、独自の理念を考案中である。居場所の確保ということを第一に考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けてのケアを提供しており、会議等で話すことはあるが、全員の共有とするところかどうかは、もう一歩である。	○	独自の理念を職員全員で考えている。皆の思いを込めたホーム独自の理念を作り、共有を図られることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の地藏盆や保育園のバザーに参加している。自治会にも参加し、顔なじみの関係もできてきた。民生委員や地域の方から行事のお誘いも頂ける様になり、回覧板を通じて、地域のことでも把握できるようになってきた。今後は、ホームからも積極的にアプローチし、多くの行事に参加したいと思っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で話し合ったことを踏まえて、ホームで改善点を話し合い、今までのケアを振り返ることができた。今回の自己評価も全員に回覧し、項目を理解するために、勉強をしたいと考えるようになった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、老人福祉委員、地域包括センターの職員、家族、ホームが集まり、2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。ホームの取り組みや、認知症についての話をしたり、参加者からは様々な意見も聞くことができた。そこからの働きかけで、地域の行事の誘いも頂ける様になり、顔なじみになった方々からは、地域の情報を教えて頂いている。	○	今後も、多くの地域の方に参加いただき、活発な会議となるような働きかけが望まれる。

洛和グループホーム出町柳

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの働きかけで、運営推進会議に、地域の方が参加して下さる様になった。会議の議事録も行政に送付している。法人としては、密な連携があるが、ホームとしては、法人を通じての関係である。ホームとしても連絡が取り合えるようになりたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書の送付時には入居者の様子や、状態を書いた手紙を同封している。ホームとしての独自の「便り」の発行については準備中である。遠方の為、訪問の少ない家族には、電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関には意見箱を設置している。ホーム側や行政の相談窓口も文書に明記している。家族には、気軽に話していただけるように接している。また、年に2回法人の取り組みとして家族アンケートを実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係作りに配慮し、変わりなく同じケアが提供出来るように考えている。移動の際には、ダメージが少ないように、十分な配慮をしている。法人内の移動はやむを得ないが、前任からの情報は、伝達もれのないように、きっちりとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでは、外部、内部とも多くの研修の機会を利用し、順次参加できるようになっている。採用時研修では、認知症の勉強をきっちりと行っている。受講した研修は、ホーム内での勉強会として、伝達研修をし、報告書を資料と共に回覧して、共有を図っている。学ぶ機会は多く、職員のステップアップにつながっている。年間の研修計画も充実している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、年に3~4回の研修に参加している。親睦会もあり、意見交換したり、情報をもたらたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来た際には、他の入居者と一緒に過ごしてもらい、ホームの雰囲気を感じてもらっている。本人の思いを、大切に受け止め、コミュニケーションを図りながら情報を得て、ケアに活かし接していく中で、慣れ親しんで頂けるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の思いを受け止め、ホームが居心地のいい居場所であるようにと支援している。人生の先輩として尊敬することはもちろん、様々な場面で、知恵を拝借しながら、一緒に行うことで、共に喜び合えることを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの気持ちに添って、ケアすることを心がけている。常に希望を聞いて行動しているが、意思確認が困難な方には、表情やジェスチャーで把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使用して、アセスメントし、長期目標、短期目標を記載し、ホームでの生活に密着した計画をたてている。家族や、本人の意見も取り入れている。独自のシートとして、24時間記録シートを用いて、計画と日常のケアにずれがないかを把握する予定である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヶ月に一度の見直しで、状態の変化にはすぐに対応している。カンファレンスを開催し、職員で話し合い、計画の評価、モニタリングを行い、再アセスメントにつなげている。評価やモニタリングの結果も家族に送付している。カンファレンスには、家族の参加も促したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院を、二人介助で行ったり、入院せずにホームで過ごしていただけるように、日頃からの健康管理に留意している。一対一での個別外出で、買い物へ行ったり、喫茶店でお茶を飲んだりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診が月に2回あり、受診が必要な時には、法人の病院に通院している。緊急時には、24時間連絡体制があり、すぐの対応も可能である。医療連携加算として、訪問看護師との連携もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としてのターミナル指針については家族の同意を得ており、意向についてもあらかじめ把握している。その時になれば、家族や、主治医、看護師と相談の上、ホームで緩和ケアをするかどうかももう一度話し合い、受け入れが出来る状態であれば、ホームで最期を看取りたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーには十分に配慮し、入居者の誇りを損なうことのないように心がけている。言葉がけにも注意し、個人情報保護の観点から、漏洩がないように、記録物は、扉付きの棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に希望を聞き、意思確認をしながらケアしている。例えば、入浴時間は希望の時間に入って頂いている。就寝時間や、起床時間も自由である。買い物や散歩も、行きたいと思われた時に行けるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の一部として、その日の献立は、その日に考え、買い物から調理、食事、後片付けと、入居者と一緒に行っている。台所仕事が得意な方が多く、にぎやかな雰囲気であった。摂取困難で、必要な方には、トロミをつけたり、キザミにしたりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前から、夕食前くらいまでなら、自由に選んでもらい希望を尊重して、ゆっくりと入浴してもらっている。お風呂の好きな方には、毎日でも可能で、汗の季節には、一日に二回でも対応できる。失禁の際に、清潔保持の為に、夜間でも行うこともある。入浴できない日が続くと、足浴や清拭を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を利用して情報収集しており、把握している生活歴を活かしたケアをしたいと考えている。一人ひとりが役割を持ち、ホームでの生活が、楽しく、張り合いになるように支援している。音楽や散歩、テレビ、絵画、習字等、好きなことに取り組んで頂けるように働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外へ行きたいと思われた時には、外へいけるような支援をしている。ローテーションの都合もあるが、出来るだけ対応している散歩や買い物での外出は、毎日である。介護計画にも外出の支援を掲げている。庭が広く、一人で自由に出入りされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はほとんど、鍵を掛けずに自由な暮らしを支援しているが、やむを得ず施錠する時もある。外出支援を積極的にし、閉塞感をもたれないようにしている。	○	職員の手薄な時間帯には、やむを得ず鍵を掛ける時もあるが、その際は、家族に了承を得ておくことが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関しては、年に2回、消防との協力で、避難訓練を行っている。2ヶ月ごとにホームだけで確認しながら訓練している。災害に関しては、充分ではなく、今後努力していきたいと考えている。	○	会議の際には避難方法を確認しているが、運営推進会議等でも、地域の方と話し合い、一緒に避難訓練をする等されてはどうでしょうか。協力関係の構築にもつながるのではないのでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は把握し、記録に残している。摂取量の気になる方には栄養バランスや、塩分を控えて提供している。法人の栄養士に、献立をチェックしてもらい、アドバイスをもらう予定である。ホームでは、おやつを含め毎食、検食をして、味、量、バランスをチェックし、所見に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光が差し込むリビングでは、一人ひとりが、自分の居場所を持ってられる感じがし、穏やかな表情であった。料理の臭いや、調理の音が聞こえる中で、歌を歌ったり、季節の花を活けたり、洗濯物をたたんだり、生活感があふれている。前回の評価で気になったトイレの臭いも改善されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しい物を揃えるのではなく、使いなれたなじみの物やこだわりの物を持ってきてもらい、その人らしい、居心地のいい居室作りをされている。		